

モデルプログラム G-3 日本語の特徴－教科書の日本語を考える－

ねらい	日本語の教材と教科書の教科書の分析を通して、日本語学習中の外国人児童生徒等にとって教科書の日本語のどのような点が難しいのかを知り、その理解や学習参加のために支援が必要なことに気づく。
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 現職一般教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
外国人児童生徒教育・日本語指導の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input checked="" type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科書の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	G 日本語の特徴 H 子どもの日本語教育の理論と方法
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	90 分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 子どもを対象とした日本語教科書の内容と構成を知る。（30分） ・教材の分析(H) 2. 外国人児童生徒等が教科書の教科書で学どき、日本語のどのような点が難しいのか考える。（40分） ・場面とことば(G) ・外国語としての日本語(G) ・生活言語能力と学習言語能力(F)	1. 外国人児童生徒等を対象とした日本語の教材を見て、子どもたちが日本語の学習として何をどのように学んでいるのかを知る。 ・どのような語彙・表現、文型・文法が学習項目となっているか ・それらがどのような構成、順序で配置されているか ・どのような練習をして定着が図られているか 2 教科書の教科書の日本語について分析的に見直し、外国人児童生徒等が教科書で学どき、どのような点でつまずきやすいかを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 教科書で取り上げる単元の例：小学校第4学年 国語科「ごんぎつね」（光村図書） 社会科「ゴミしゅり」 算数科「面積」 理科「電池」 （見開き2ページ程度を用意） </div> 1)個人で、教科書の教科書を1つ選択し、外国人児童生徒等にとってどのような点で日本語を難しいと感じるかを考え、付箋にメモする。 2)選択した教科書毎にグループに分かれ、各自が気づいた日本語の難しさを話し合い、KJ法等を用いて分類する（付箋のメモを用いる）。 3)グループで話し合った結果を発表し、全体で共有する。 ◇必要に応じて、日本語の次の特徴について補足的に説明する。 ・文法 構造、語順、修飾、指示、接続 ・語彙 生活の語彙、教科の語彙、語と語の関係
3. 教科書の日本語の難しさに対し、どのような支援が可能か探る。（20分） ・学習参加のための視点(J)	3. 教科書の日本語の難しさに関して、どのような支援ができるか、グループで話し合う。 ・語彙を知らない場合 ・文構造が複雑な場合 ・日常会話とは異なる表現が多い場合 ・文章が長い場合
備考	受講者が教員の場合、教えている子どもの学年の教科書で取り上げてよい。